

八束のひろば

～八束公民館報 第8号～



ドリームビヨニ

発行:松江市八束公民館運営協議会 〒690-1404 松江市八束町波入2219-2 Tel(0852)76-3663 Fax(0852)76-3669



水鉄砲作り



水鉄砲遊び



国際交流



おもてなし講座



スイートポテト作り

この他、公民館の青少年部では、家族体験活動や世代間交流事業なども行われています。世代間交流事業では、八月にそうめん流しが行われ、たくさんの子どもたちが楽しいひと時を過ごしました。体育部、その他の専門部の活動を加えると数えきれないほどの活動があり、地域で育てられている「八束っ子」という言葉がぴったりと当てはまります。地域の方に見守られてすくすくと育つ八束っ子。笑顔が輝き、元気な八束っ子が育つよう、これからも学園、地域、公民館がしっかりと連携していきたいと考えています。よろしくお願ひいたします。



松江市立小中一貫校八束学園
学園長 片山 寛志

数は六三〇名に及びました。このように「八束っ子の応援団」（学校支援ボランティア）は着実に増加しています。年齢層の幅も広く、特にサタデースクールでは、地元の大学生の方にも九年生の学習相談に乗っていただき、大きな成果をあげました。多數の方の応援をいただいて、学園の教育活動が行われていることに対し改めて厚くお礼申しあげます。

八束学園を支援していただくボランティアの方は、平成二十五年度新たに二十六名の方に登録していただき、昨年度中に支援をしていただいた延べ人

数は六三〇名に及びました。このように「八束っ子の応援団」（学校支援ボランティア）は着実に増加しています。年齢層の幅も広く、特にサタデースクールでは、地元の大学生の方にも九年生の学習相談に乗っていただき、大きな成果をあげました。多數の方の応援をいただいて、学園の教育活動が行われていることに対し改めて厚くお礼申しあげます。

地域で育てられる「八束っ子」



総務部について

総務部長 安部 吉輝

総務部は公民館運営協議会全体に関わる業務をしており、運営協議会の開催や運営、また事業としては、広報活動や環境美化活動、松東ブロック事業、防災に関わることなどを実施しています。八束公民館には六つの専門部会があり、部長や副部長を中心としがれが事業を計画しています。そこで、各専門部の活動を紹介するために、総務部の事業の一つである公民館報を、今回は今までと少し趣向を変えて発行します。全面カラー印刷にすると共に、内容も各専門部の部長に昨年

度の事業報告や、今年度の事業計画などについて書いていただきました。今後も、各専門部で公民館事業について企画運営していただき、公民館運営協議会委員を中心に、地域の皆さんのが参加する、住民主体のまちづくりを進めていきたいと考えていますので、皆さんのご協力を願います。

防災訓練は、自治会連合会と八束支所が主体となり、消防団や地区社会福祉協議会の協力を得ながら実施し、多くの町民の方々に参加していただけます。万が一の自然災害等が発生した場合に被害を最小限に抑えるために、日頃から防災意識を高める必要があると感じます。今年度も実施予定ですので、多くの町民の方々に参加いただき、防災について再認識する機会にしていただけたらと思います。



**まな
まな
まな
まな
まな
まな**
**学びて時に之を習ふ、
亦た悦ばしからずや。**

研修部長 福間 勝

見出しの言葉は『諭語』の冒頭です。公民館の「研修」の心を教えてくれています。
学んで、かかるべき時に、繰り返しあさりじをする。そのたびに、理解が深まり、自分のものとなっていく。これこそなんと人生の喜びではないか。

研修と構えるとつい敬遠しがちになりますが、「学ぶ」の語源は先ず「真似る」でした。

昨年度の主なテーマは次のとおりでした。

- ふるさと・文化講座
- にんじん（もの作り）学級
- 人権・同和教育
- 本の読み聞かせ 他

私たちはたまたまこの八束町で共に生きています。人は独りでは生きられない存在です。何よりも自分がより楽に生きるために、地域の価値を見つけ、もっともっと他人の生き方を理解し、自分の思いを他にも伝える言葉と技とを身につけたものです。

見出しの『諭語』の言葉は左に続いています。
「朋有り、遠方より来る、亦た樂しかりあや」
(こうして学んでいると、共に学ぼうとする友だから、遠いところからもやって来て、なんと愉快なこ
とではないか)



文化活動を振り 返つて

文化部長 竹谷 享祐

八束町民が共に楽しむ文化祭は、幼稚から高齢者まで素晴らしい創作品の展示。音楽祭には、かわいい保育園児を始め、日頃の練習の成果の出たサークルの人達の歌や踊りや演奏の発表。屋外におけるテント村。八束学園の生徒と多くの地域の方々による運営と活気ある活動により大いに賑わい来館された町民は楽しめ、喜ばれました。文化祭事業に、出演、出品あるいはボランティアのご協力に感謝申し上げます。

次に、伝承文化の「島芝翫節」と「島弁タイムズ」についてです。



『島弁タイムズ』は代々、口伝えによって引き継がれてきました。この貴重な大根島の文化遺産を次世代に継承していく為に、八束学園の今岡先生に依頼し、楽譜化して頂きました。次年度には、DVD、CD、楽譜本の作成を計画しています。

『島弁タイムズ』も第十二号まで発行されました。編集委員の熱意により、失われつつある言語、生活、風習、言い伝えなど、面白く懐かしく、分かり易い記事になっています。島弁タイムズの委員による寸劇「島の花売り」は、敬老会、松江市福祉大会で上演し大好評を得ました。

生涯学習とはものを作りそれを発表することといいます。文化的な活動は生活に潤いをもたらし、その成果は町の活性化の大きな要因です。今後、ボランティア、サークル、諸団体の活躍を願い、八束公民館の発展を期待しています。



にんじん学級 フラワーアレンジメント



ふるさと・文化講座 ばたん接ぎ体验



ふるさと・文化講座 インドの文化について



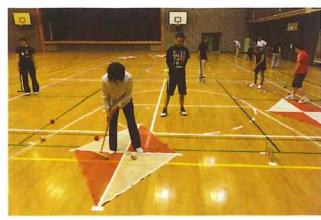
本の読み聞かせ



人権・同和教育視察研修（広島市）



スナッカゴルフ講習会



ダイヤゾーンボール講習会



テニス教室



卓球教室



第 51 回 八束町民体育祭



体育部からの ご案内

体育部長 萩原 治

体育部では、体育協会と連携して、町民の皆様にいろいろな運動競技に参加していただこうと思、各種ユースポーツを実施しています。昨年度に引き続き、今年度も様々な企画をしています。ユースポーツは今までやった事がない方でも、気軽にできる競技ですので皆さんぜひ参加ください。

まず、六月二十三日（月曜日）にダイヤゾーンボールの練習会を体育館で行ないます。これはゲートボールと同じようなスタイルでボールを打ち、ダイヤゾーンにボールを止めたたり、ゲートをくぐらせたりする競技です。秋にももう一回企画します。

次はスナッカゴルフです。これはゴルフ競技に似たユースポーツで、これも子供さんから大人まで一緒に、簡単に楽しめる競技です。七月十二日と八月二十三日の両土曜日、江島テニスコート

スコートにてナイターで行ないます。ユースポーツよりは少しハードですが、フリー、サーブ、レス、サーブ、ボレー等だいたいの基本を習得できます。

九月中旬には中海テニス大会が近隣地区の愛好者を募って八束町で開かれます。

そして二月十五日（日曜日）には、公民館対抗の卓球大会が市総合体育館であります。それに向けて、卓球教室を開く予定にしています。

いずれも事前に有線放送でお知らせしますので、ぜひご参加ください。

さて、十月二十一日（日曜日）には松江市民大運動会が市陸上競技場で開かれます。内容はリレーを除けばほとんどがユースポーツの種目です。各地区の区長さんや体協の理事さんは大変お世話になりますが、この方たちからお声が掛かりましたら、是非ともご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

子ども達は毎日学校での授業や部活動（スポーツも含む）で朝から夕方まで一生懸命です。その授業やスポーツから離れての青少年部を通しての活動、特に世代間交流の場は、良い意味でのふれあいの場となり子ども達が今後成長していく過程で貴重なそしてお金では買えない経験になると思います。その活動のお手伝いをしている私達も子ども達と大きな声を出し合ったり、時には笑ったり（健康にいい）で元気をもらっていると思えば感謝しなければと思うのです。

ひとつのが家族体験活動（世代間交流）で子どもから大人まで楽しむことができる『そつめん流し』はどうかということになり、大きい竹は入江地区の方のご厚意により準備することができました。（色々と苦労もありましたが）当日はボランティアの方や公民館職員の方にもお手伝い頂き、人数が六十人近くになりましたが大好評でした。子ども達の生き生きとした顔、楽しそうにされている保護者さんの顔を見て安心しました。流れが終つてから全員でスイカ割りをして食べ楽しい半日を過すことができました。

じなりの公園で開く予定です。

さらに硬式テニスの初心者教室を開きます。これは町民を主体に活動している元一スクループのトワイライトさんにお世話をりますが、七月



青少年部の活動を 通して

青少年部長 竹谷 昭徳

私は、八束公民館運営協議会の専門部で青少年部を担当している竹谷です。

青少年部では、他の部と違い、活動する分野が広く、子ども達だけで自主的に行なっている活動や、親子が一緒にになって行なうか、親子そして高齢の方も交えての世代間交流事業等々であり毎月何かの活動をしています。

子ども達は毎日学校での授業や部活動（スポーツも含む）で朝から夕方まで一生懸命です。その授業やスポーツから離れての青少年部を通しての活動、特に世代間交流の場は、良い意味でのふれあいの場となり子ども達が今後成長していく過程で貴重なそしてお金では買えない経験になると思います。その活動のお手伝いをしている私達も子ども達と大きな声を出し合ったり、時には笑ったり（健康にいい）で元気をもらっていると思えば感謝しなければと思うのです。



平成二十五年度より地区社会福祉協議会事務局が公民館に移管され公民館運営協議会の部会に健康福祉部会が設けられ公民館活動でも福祉活動を行つ事となりました。

健康福祉部会は公民館運営協議会参加の八束町内の福祉団体で構成されています。

初年度の活動目標は団体間の重複活動を避け、公民館の活動目的である生涯学習に沿い、公民館での活動がより効率的な活動として定着でき



健康福祉部会

健康福祉部長

足立 章光

町内住民の参加、福祉団体の活動支援に繋がる事、八束町の福祉課題に合致する事とし、糖尿病、高血圧予防、男性も料理への参加をと「男の料理教室」として平成二十六年一月二十六日ちとせやつかにて二十五人の参加で開催しました。教室は一、ヘルシー 二、簡単 三、素早く 四、酒のつまりもと約一・五時間の実技を行い後で試食を行いました。

終了後は食生活改善推進員さんより、減塩料理、糖尿病予防のクイズなどの指導を頂き楽しい研修会となりました。

平成二十六年度は糖尿病、高血圧予防教室、運動教室、料理教室などをテーマに、町内の皆さんのご意見、要望を取り入れ健康福祉部会活動を推進して参りますので皆様の参加をお願いします。



過し参加者全員で七草粥を食べました。一杯三杯とおかわりする子どもが続出しました。

一二三の活動状況を記しましたが、子どもは学校での勉強や部活動も大事なことですですが月に二回か三回は勉強等から開放してやり公民館を通して色々な活動に参加させ、大人との交流の場を沢山することにより八束の子どもが素敵な子、やさしい子そして元気な子どもに育つていくことを願い今後も頑張つていきたいと思っていきこの頃です。

松江市の公民館について



公民館長

池田 均

る公設自主運営方式へ移行しました。昭和四十年代後半には二十公民館の自主運営への移行が完了し、昭和五十六年に一館新設され二十一公民館となりました。その後、地方自治法が改正され、松江市の公民館は、平成十七年に松江市と合併した旧八束郡の公民館は、平成十八年九月から指定管理者制度を導入しています。

平成二十年度より地域の理解を得ながら、条件の整った地区から公設自主運営方式へ移行し、平成二十二年度から八束公民館も移行しています。

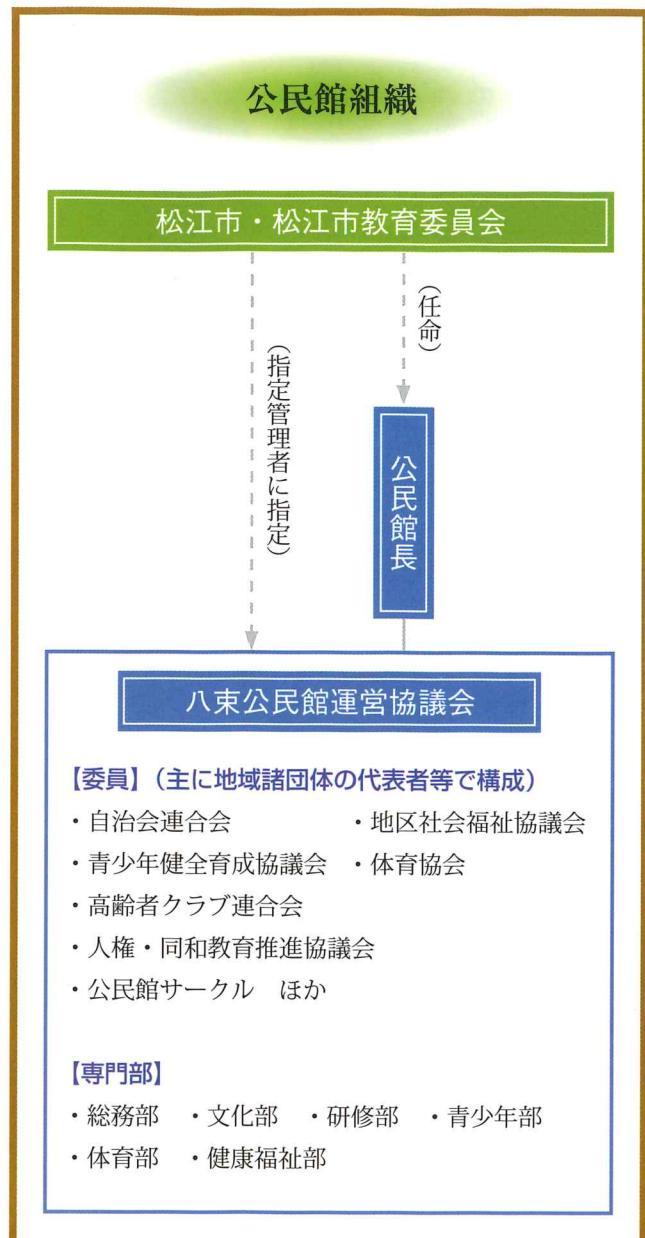
② 公設自主運営方式の特徴

① 地域住民の活動拠点

松江市の公民館は、昭和二十七年（一九五二年）から市役所内に併設されたのが始まりです。公民館の運営方式は、当時は直営でしたが、市の財政事情等により、昭和四十一年から各地区の団体などで構成された公民館運営協議会の自主的な運営に委ね

- ・ 地域の特性に応じ、住民に密着した運営
- ・ 各種団体との連絡調整が容易
- ・ 住民が直接公民館の運営に参画
- ・ 専門部による事業の自主企画と運営
- ・ 社会教育の領域を超えた事業の展開が可能

- ③ 公民館の機能と役割
 - ・ 地域の連帯感の醸成、自治振興の基盤づくり
 - ・ 地域の教育力を高める活動
 - ・ 地域の拠点としての公民館
 - ・ コミュニティづくりのコーディネート
 - ・ 地域福祉の推進
 - ・ 子どもの育成と学社融合・連携
 - ・ 人権教育の推進
 - ・ 地域防災・環境問題の取り組み
- ④ 特色ある公民館運営に当たり地元費の協力
- ① 生涯にわたる学習機会の提供
- ・ 文化活動やレクリエーション活動などの機会の提供
- ・ 地域の情報・相談センターとしてのサービスの提供



あとがき

平成二十五年度も、地域の皆様に支えられながら事業ができましたこと、心よりお礼申し上げます。事業を通して、たくさんの方々と関わり、ふれ合い、多くの笑顔に出会えた一年となりました。

今後も地域の拠点として、皆様が生き生きと暮らせる地域づくりを目指し事業を進めてまいりますので、変わらぬご理解とご協力をお願いします。